

調査報告

入院による不安や入院前に知りたかったこと
～入院患者へのアンケート調査による入院時と退院時の変化～唐澤卓馬¹⁾ 木下正太²⁾ 森川明³⁾ 赤崎照美⁴⁾ 坂田智司⁵⁾ 高野利彦⁶⁾ 鶴良太⁷⁾ 丸山英樹⁸⁾¹⁾伊那中央病院 ²⁾高島市民病院 ³⁾第一東和会病院 ⁴⁾飯塚市立病院⁵⁾浜田医療センター ⁶⁾熊谷総合病院 ⁷⁾イムス葛飾ハートセンター ⁸⁾戸田中央総合病院

【はじめに】

医療従事者で行うべき治療として定着してきた離床は、一般市民には十分浸透しておらず¹⁾、医療者と患者で離床の認識の相違が生じている。日本離床学会では、離床というコンセプトが“あたりまえ”となる文化を築くべく、2017年より一般市民に対する教育講座を開始した。その先駆けとして日本離床学会一般市民教育グループでは、医療者を対象に「患者家族の不安や事前に知りたこと」の聞き取り調査を実施し、からだ・家族・金銭面・介護に関する不安が多いことが明らかになった²⁾。今回、一般市民に対する教育内容を検討することを目的に、前回の調査結果を基に入院患者を対象にアンケート調査を実施した。

【倫理的配慮】

日本離床学会倫理審査委員会の審査を受け、審査委員長に実施の許可を得た上で、患者の同意を得て実施した。

【対象と方法】

対象は平成30年4月から8月の間に、リハビリテーション（以下、リハ）処方のあった入院患者100名（男性45名、女性55名）とし、日本離床学会一般市民教育ファシリテーターが所属する全国8施設で実施した。除外基準は予定・検査入院の患者、未成年の患者、認知症・意識障害を有する患者とした。方法は退院時に書面でアンケート調査を実施した（図1）。内容は大項目1で入院時と退院時の不安の強さを1～5の5段階評価とし、①からだ、②家族、③金銭面、④介護、⑤その他の5項目を調査した。その際の心境の変化を自由記載とした。大項目2では、入院前から事前に知っておけばよかった知識・情報等を自由記載とした。統計処理は統計解析ソフトSPSSとEZRを用い、Wilcoxonの符号順位和検定で中央値を算出し、入院時と

退院時の値を比較、検討した。なお、有意水準は5%未満とした。

【結果】

1. 入院時と退院時の不安の強さ（図2）

「①からだのこと」は中央値2から4、「②家族、③金銭面、④介護のこと」は3から4へと全項目で有意差をもって不安は減少した。表1の「⑤その他」では、仕事復帰や運転の可否、退院後の生活等の不安が多く挙げられた。

1-⑥. 入院時と退院時の心境の変化（表2）

「①からだのこと」は早期リハ介入などを通し、からだの回復に伴い不安が減少する一方、痛みの残存や病識の増加により不安が増加した。「②家族のこと」は家族の協力や入院経験により不安が減少する一方、家族への負担を懸念

退院時アンケート

日本離床学会 一般市民教育グループ

一般市民教育グループでは今後の活動の参考のために、皆様のお声を聞きたいと考えております。お手数ですが、下記のアンケートにご回答いただければ幸いです。皆さんからいただいた情報は当会で責任をもって管理し、学術・教育目的にのみ使われます。ご同意いただける方のみ、ご回答ください。

1. 入院時と退院時で、それぞれのくらい不安に感じていましたか？（どれか1つに○をつける）

1-① からだのこと
 ・入院時：かなり不安だった — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はなかった
 ・退院時：かなり不安である — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はない

1-② 家族のこと
 ・入院時：かなり不安だった — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はなかった
 ・退院時：かなり不安である — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はない

1-③ 金銭面のこと
 ・入院時：かなり不安だった — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はなかった
 ・退院時：かなり不安である — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はない

1-④ 介護のこと
 ・入院時：かなり不安だった — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はなかった
 ・退院時：かなり不安である — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はない

1-⑤ その他()
 ・入院時：かなり不安だった — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はなかった
 ・退院時：かなり不安である — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 不安はない

1-⑥ 入院時と退院時で、心境の変化(不安に感じたことの変化や差)を具体的に記載して下さい。

2. 入院前から事前に知っておけば良かったこと(知識や情報など)には、どのようなものがありますか？

ご協力いただき、ありがとうございました。

図1 アンケート用紙

することで不安が増加した。

③金銭面のことは貯金や保険、制度の利用で不安が減少する一方、入院費がわからないことや年金生活により不安が増加した。④介護のことは介護を受ける側のからだの回復により不安が減少する一方、介護者への負担を懸念することにより不安が増加した。⑤その他では仕事復帰や運転の可否により、不安の減少、不安の増加が左右された。

2. 入院前から事前におぼればよかった知識、情報等 (表3)

「②家族のこと」と「④介護のこと」は多くの回答が共通し、「①からだのこと、③金銭面のこと、⑤その他のこと」では多様な回答が得られた。

【考察】

入院時から退院時にかけて、全項目で不安は減少する傾向であった。医療行為を通し、からだの回復していく過程で不安が減少する割合は多く、その他に、患者を取り巻く家族の支えや医療者の関わり、病院や社会制度の充実さも不安減少に重要であった。緊急入院患者のみを対象とした調査の影響からか、不安の減少しない患者は事前の知識・情報不足が共通しており、家族・金銭面・介護に関しては、からだの不安に比べ不安の減少の変化が少ない結果となった。早期離床についても必要性の認知度が低く、経験して気づいたという意見もあり、一般市民への早期離床をはじめとし

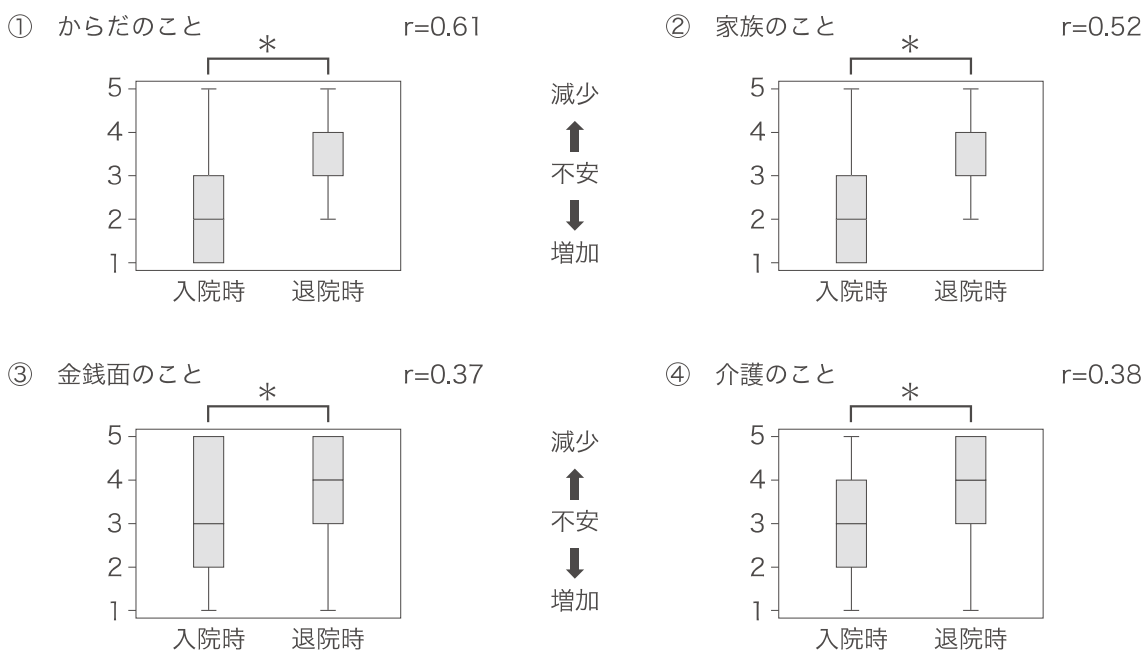


図2 不安の強さ

表1 その他

仕事	病状	運転	退院後生活	痛み, 家事, 入院中の生活 リハ・ストレッチ	趣味, 親の介護, 外出 物忘れ, 退院時期 農業, 病院との温度差
7人	5人	4人	3人	2人	1人

表 2 入院時と退院時の心境の変化（一部を抜粋）

①からだ	○動けるようになり不安は減り、リハビリの重要性を理解した。 ○退院前訪問で環境調整をしてもらい動きやすくなった。 ○原因が分からない事が心配だった。指導・説明で不安は解消。 ○早い段階からリハビリが始まりよい方向に向かって安心した。 ○症状、手術、治療がわからず心配だったがリハで良くなった。 ×疾患に対する不安が今後の生活への不安に変わった。 ×脱臼肢位のことを聞いて不安が増した。 ×リハが進むにつれ不安が減ったが、いつまた病気になるか不安。 ×痛みが続くこと、痛むまま退院になる事も考えられなかった。 ×入院時は病気がわからなかった。退院時は病気であることも理解し、身体の動きづらさや注意面の低下も感じて心配になった。
②家族	○家族が同居、家事、農業をしてくれるのを聞いて安心した。 ○家族の事は前回の入院経験があるから不安はなかった。 ×介護をしてきている家族が倒れた時の不安が強い。 ×家のことを夫に負担をかけるのが心配であった。
③金銭面	○貯金をしていたから心配は少ない。 ○高額医療制度が使えるため不安ではない。 ○保険に入っているため金銭面はそれほど心配ない。 ×どのくらい入院費がかかるのか不安。 ×年金生活のため金銭面の心配が強い。
④介護	○夜間の介護が不安だったが動けるようになり不安なくなった。 ×嫁が介護疲れで倒れたらどうなるか不安が強い。
⑤その他	○仕事の継続の不安があったが術後リハを知り勇気づけられた。 ×車の運転ができるかが心配。

○不安減少 ×不安増加

表 3 入院前から知っておけばよかった知識、情報等（一部を抜粋）

①からだ	疾患の知識・予後、予防策、早期受診の判断、生活習慣の重要性、健康診断の重要性、リハ開始時期・内容（早期離床の重要性）
②家族	入院中の家族の世話
③金銭面	入院費、控除、高度療養費制度、限度額適用認定証、部屋代の違い、健康保険サービス
④介護	介護保険制度
⑤その他	入院期間、入院後や転院・療養への流れ、病院の評判、病棟システムや個室管理、必要な物資、運転許可

た幅広い入院前教育の重要性が示唆された。在院日数の短縮³⁾がどの病期でも課題となっている中、早期離床は治療の一つであり、入院期間の短縮が家族・金銭面・介護をはじめ、からだ以外の多くの要因の不安減少にも繋がる可能性を事前に理解しておくことが重要と考える。本研究の限界と今後の課題は、除外基準である予定・検査入院、未成年、認知症・意識障害を有する患者の意見を反映した結果ではないこと、また、関わる家族の意見も反映されていないことである。そのため、予定・検査入院、未成年患者本人の意見や、認知症・意識障害を有する患者も含めた家族の意見を反映させた研究が課題と考える。

【結論】

入院前から疾患や制度の知識、リハ内容や早期離床の重要性を得ておくことは、入院中の不安の減少に繋がる可能性が示唆された。以上を基に、今後一般市民教育プログラムの内容を作成していきたい。

【文献】

- 1) 川瀬和夫：入院患者に対する離床認知度の調査報告。EARLY MOBILIZATION JOURNAL VOL.4：2018、21-22。
- 2) 木下正太・鶴良太・唐澤卓馬、他：一般市民に対する離床のススメ～今から始める患者・家族に向けたメッセージ～。EARLY MOBILIZATION JOURNAL VOL.4：2018、29-31。
- 3) 厚生労働省：平成28年（2016）医療施設（動態）調査・病院報告の概況：pp. 21。